

平成27年10月29日

阿部地区における2年間の実証成果から 全国展開可能なシステムへ

四国放送株式会社
編成局テレビ編成部
武知浩史

阿部地区について

徳島県海部郡美波町阿部

人口約250名、約130世帯

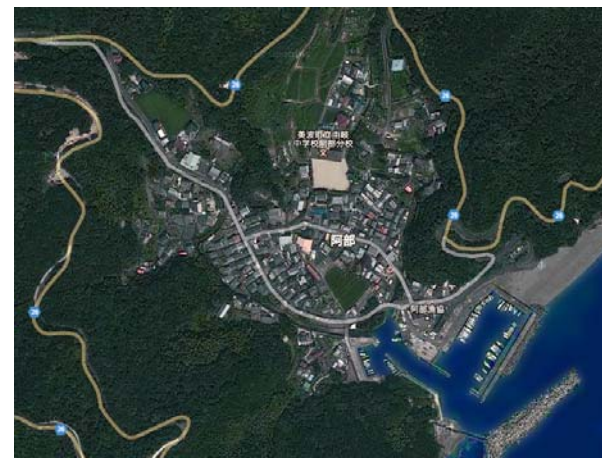
何故阿部地区なのか？

12分で津波の影響が出はじめ、30分で最大17-18mの大津波が襲来することが予測されている地区

瀬戸事務局長を中心に防災意識が非常に高く地域がまとまっている。



ICT街づくり推進事業の
実証地区として最適！



阿部地区(阿部地区を囲むように
海拔20mを超える県道が通っている)



阿部自主防災会瀬戸事務局長

阿部地区について

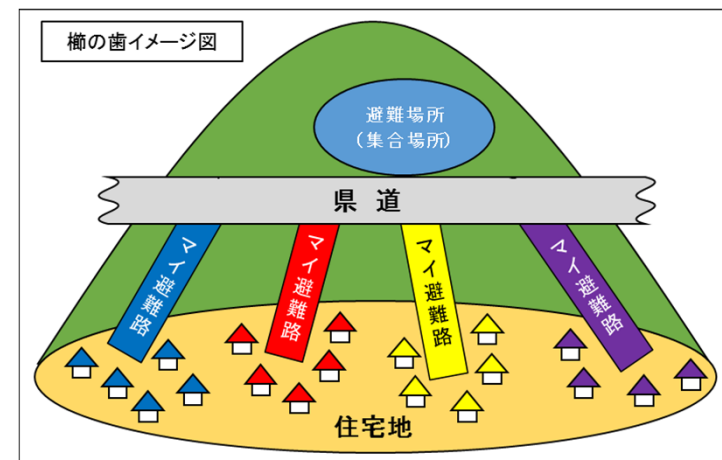
阿部地区の取組・考え方

- ① 地区内に22の避難路を自助努力で設置
→ 遠くより高くへ！
- ② 共助より自助を優先
→ 健常者は、一目散に避難路入口へ
要支援者は、避難所入口まで自力で逃げる
(避難所入口から健常者が20mラインまで担ぎ上げる)
- ③ 数日間に及ぶ避難生活を想定した避難所の整備
→ 避難広場には、食料、布団はもちろん、
トイレ、冷蔵庫などを完備。
要支援者は、事前に衣類を避難広場で保管。



20mへの挑戦

- ◆ 海拔20m表示(セーフティライン)
- ◆ LEDバッテリー付き防犯灯
(夜間目標と心の支え)
- ◆ 県道につなぎ、横連絡(櫛の歯)



阿部地区の課題

助けた命の情報を外部にどのように発信するのか？
手段はあるのか？

「助かる」から



「生き延びる」へ

避難所でのチェックインシステム



総人数	41人(地域外住人:1人) 男性:27人(地域外住人:1人)/女性:14人	
血液型	A型:15人/B型:9人/O型:13人/AB型:4人	
年代	10歳以下:1人/10代:1人/20代:2人/30代:3人/40代:4人/50代:7人/60代:8人/70代:9人/80歳以上	
特記事項	持病	喘息:1名/高血圧:3名/糖尿病:1人
	使用薬	バルミコート:1人/インシュリン:1人
	介護レベル	様支援1:4人/要介護2:5人/要介護4:4人
	障害	身体障害者手帳 第一種 2級:1人/精神障害者保健福祉手帳 3級:1人
	アレルギー	あり:3人

システム導入に向け何をしたのか？

個人情報の収集

阿部自主防災会・蔭谷会長と瀬戸事務局長が戸別訪問し、個人情報を収集。
(平成25年7月下旬～9月上旬)

テレビコンディションの確認

阿部自主防災会戸別訪問後に、住民対応を担当したテレコメディア・四国放送が、戸別訪問し住民に対する理解促進とテレビ設定を確認。
(平成25年8月～10月上旬)

ネット結線作業(通信事業者)及びルーターからテレビの結線作業を実施。
(平成25年10月～9月中旬)



全国への普及展開を考えればこれだけの人的労力をかけられない！

住民に対してシステムの理解促進を図る

住民説明会や住民回覧板などを利用して、避難訓練では、① テレビをつけて、チャンネルを四国放送に合わせておく
② カードを持って避難する
事を徹底して周知した。

阿部地区自主防災会の声

- 徳島県南部全域が被災した場合、阿部地区への救助はいつ来るかわからない。数日間の避難生活を想定すると、誰がどこにいるのかを外部へ知らせる事ができる本システムは非常に有効であり、まさに**生き延びるためのシステム**だ。
 - 個人名の入った避難指示画面がテレビに映し出されると、危機意識が高くなり、**避難行動に移る時間が早まった**。
(実証成果として、個人名表記がある場合と無い場合では、避難のピークが**4分**、平均避難時間が**2分**早まった。)
 - 避難の際はカードを持って避難する事が阿部地区の常識となった。**カードは命を守るもの!**
- スマートフォンにアプリをDLするだけでチェックインができる為、防災に若者を巻き込む事ができた。
 - 要支援者に対して、避難所入口まで避難するだけでよい(20mラインへは先に逃げてきた健常者が担ぎ上げる)ことを説明してまわり、避難に対するハードルを下げた。これにより、防災意識が高まり要支援者の“生き延びよう”という活力が生まれてきた。
 - 避難状況のデータは、各個人に則した最適な避難ルートを指導する事に非常に役立っている。

全国へ普及・展開するために

すだちくんカードやデータ放送のBMLでの避難指示画面を
個人番号カードやハイブリッドキャストに置き換える事により、阿部のようにマンパワーをかけることなく
本システムを全国に一気に普及展開させる事が可能になる。



阿部地区の実証成果を
効率的に全国展開させる最も有効な手段

地域の放送事業者として

地域住民に役立つ放送やサービスを行っていく事は非常に重要

テレビは災害時に、県民の生命・財産を守る
最も身近で有効なメディアでなければならない

徳島県は、南海トラフ巨大地震を迎え撃ち、死者ゼロへ挑戦する

スマートテレビを防災などと連携させた、本システムは大いに利活用していきたい

本日参加されている全国のローカル局様においても、是非本システムの仕組み等共有いただければ幸い